

第6節 高校3年生

生き方を探るⅡ

大 羽 徹・本 間 洋 亮
隅 田 久 文・大 林 直 美
竹 内 史 央・今 村 敦 司

【抄録】 中・高の6年間を通して行ってきた「総合人間科」の集大成である。「生き方を探るⅡ」という大テーマのもと、生徒各々に自身の進路について真剣に考えさせ、希望進路の学部または希望職種へのFWを行った。その結果をグループ内でFW報告会という形でプレゼンテーションを実施した。

【キーワード】 進路 生き方 フィールドワーク キャリア教育 総合的な学習の時間

1. はじめに

高校3年生では、6か年（または3か年）にわたる総合人間科の締めくくりとして、卒業後の進路を主体的に探るという位置づけから、「生き方を探る」という大テーマが設定されている。この大テーマどおり、生徒たちは興味がある学部や学科の教授や将来就きたい職業への訪問を行った。その結果、自身の進路を見つめ直すいい機会ができ、その後の受験勉強にも目的を持って取り組めた様子である。

2. 学年の目標

自らの自己形成の過程を知り、主体的に生き方を選択することができる力を育てる。進路問題を個人の問題とはせず、系統別グループ内で検討し、実りある進路選択を行うことができようにする。具体的には、学外でのフィールドワークによって自分の進路決定に関わる人から直接学んだり、スピーチや研究集録の形式で自らの意識を発表する。こうすることで、自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

3. 学習方法

前期は学外でのフィールドワークによって自分の進路決定に関わる人から直接学ぶことを中心とした。これをもとに前期にはグループ内でFW報告会、後期にはグループ内スピーチの形式で自らの意識を発表した。こうすることで自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

4. 1年間の活動実績

- 4/11 概要説明・アンケート
- 4/17 進路希望系統別グループ発足
- 4/24 フィールドワーク先検討①

- 5/1 フィールドワーク先検討②
- 5/8 フィールドワーク先決定完了
- 5/15 依頼状作成
- 5/22 フィールドワーク先依頼状発送完了
- 5/29 フィールドワーク
- 6/5 フィールドワーク先へのお礼状発送
- 6/12 フィールドワーク報告会準備
- 6/26 フィールドワーク報告会：グループ内卒業論文ガイダンス
- 9/25 スピーチ原稿・集録原稿執筆①
- 10/9 スピーチ原稿・集録原稿執筆②
- 10/16 グループ内スピーチ①
- 10/23 グループ内スピーチ②
- 10/30 グループ内スピーチ③
- 11/6 グループ代表スピーチ
- 11/20 研究集録（卒業論文）原稿執筆
- 12/11 研究集録（卒業論文）原稿完成
- 1/30 総人アンケート
- (3/5) 中1への講話

5. 系統別グループ

進路希望の系統別にほぼ均等な人数になるように生徒を割り振り、17～22名のグループを6つ作り、学年団の6名の教諭がそれぞれを担当し、グループ内での取り組みを援助した。どのグループもリーダーとサブリーダーを決めた。

班	系 統	人数	担当教員
1	人文科学	18	今村
2	社会科学	18	隅田
3	理学・農学	17	大羽
4	工学	20	竹内
5	医歯薬看護学・生活・保育・国際	22	本間
6	教員養成・芸術・体育・就職	20	大林

6. 生徒の取り組み

(1)フィールドワーク（5月29日）

生徒たちはグループ内でよく検討し、自分の進路希望に見合ったフィールドワークを行うことができた。生徒によっては複数箇所へのフィールドワークを行う者もあり、非常に意欲的に取り組めた。例年通り大学のみならず企業へのフィールドワークを行う生徒もいた。以下に記すのは班別のフィールドワーク先の一例である。

1班 人文科学系統

名古屋大学 教育学部、文学部
 南山大学 人文学部
 愛知教育大学
 愛知学院大学 経済学部
 中日新聞社
 (株)ドリームスカイ名古屋

2班 社会科学系統

名古屋大学 法学部
 岐阜大学 地域科学部
 南山大学 総合政策学部
 名古屋大学大学院
 愛知学院大学大学院
 名古屋地方検察庁
 電通名鉄コミュニケーション
 日本キリスト教団南山教会

3班 理学・農学系統

岐阜大学 応用生命科学部
 名古屋大学大学院
 メナード
 陸自守山駐屯地

4班 工学系統

名古屋大学 理学部、工学部
 名古屋工業大学 工学部
 名古屋大学大学院
 中部国際空港航空管制塔
 (株)ONE-IRO

5班 医歯薬看護学・生活・保育・国際系統

名古屋大学 医学部
 名古屋大学大学院
 椋山学園大学 管理栄養学部
 名古屋女子短期大学 保育科
 名古屋大学病院
 名古屋市立大学病院
 八事日本赤十字病院

愛知県がんセンター
 JICA 名古屋地球広場
 国際連合地域開発センター

6班 教員養成・芸術・体育・就職系統

名古屋大学
 愛知教育大学
 岐阜聖徳学院大学
 名古屋芸術大学
 河合塾美術研究所
 トレーニング科学研究所
 愛知県地方協力本部
 名古屋市障害者スポーツセンター
 京洛警察犬訓練所
 スマイルミュージックアカデミー

フィールドワーク実施の約1か月後の6月26日に各グループ内で報告会を行った。1人当たり約5分でスピーチを行い、必要があれば質疑応答の時間も設けた。メモ用紙を配布したため、どの生徒も熱心にスピーチに耳を傾けていた様子であり、このようなプレゼンテーションやスピーチの積み重ねが彼らの自信にもつながっているように感じられる。

(2)生き方に関するスピーチ

夏休みを前にした7月9日、次なる取り組みである生き方に関するスピーチと卒業論文執筆の説明を行った。内容は①フィールドワークの内容を踏まえての自分の考え、②これまでの自分を振り返っての自分史、③今後の展望、とした。夏休み前から書くように指示は出していたものの、一斉のスタートは学校祭明けの9月25日と10月9日の総合人間科の授業内で行われた。また、卒業論文にすることも可能なので基本的には集録用紙は2枚ないしは4枚でまとめるように指示を出した。自分の意見を論理的にまとめて発表しなければいけないので、AO入試の小論文に活用されただけでなく、総合人間科のスピーチの内容をそのまま面接の自己アピールとして使えた生徒も少なからずいた模様だ。実際、高い合格率となってその効果を示してくれた。

10月16日から3週に渡り、まず各グループ内で1人7分を目安に発表会を行った。前期に行われたフィールドワーク報告会同様に他の生徒が発表している間はメモを取れるように用紙を配布した。さらに、グループ内で特に優秀なスピーチをした者上位2名を選出するために、3名の名前を記入する投票用紙を各生徒に配布した。以下に記すのは11月6日に交流ホールにて行われた選抜によるスピーチのタイトルである。

未来予想図

みんな大好きな数学の話
 僕と偽善と先生
 やりたいこと
 わた史
 反省
 今後
 人生樹系図
 上り坂物語
 僕の夢
 m to M
 変身!!生きる意味
 向き合う勇氣
 スティーブ・ジョブズに生き方を学ぶ

どの生徒もグループ代表にふさわしく、堂々とスピーチを行い、大多数の者がパワーポイントやB紙を用いて聞き手の聴覚だけでなく視覚も意識したものになっていた。相手に自分の意見をわかりやすく伝えようとする意志が汲み取れ、3年もしくは6年の集大成にふさわしい実に充実した発表会であったと言える。

(3)卒業論文

代表スピーチのあと約1か月後の12月11日に卒業論文を全員が完成させた。受験も間近に迫る中かなりの過密スケジュールであったが、遅くまで自分のテーマについて調べ、妥協することなく研究集録を書いている姿が印象的であった。

学年大テーマ「生き方を探る」に基づき、これまでの人生をじっくり振り返る者、これからの長い人生に思いを馳せる者、さらにはフィールドワークでの研究成果に自分が大学で学びたいことや将来の夢をからめたものを書いた生徒もいた。卒業論文の主なタイトルを以下に示す。

1班 人文科学系統

たった一言の分岐点
 反省と感謝
 伝えること
 小児医療における心理ケア
 ジャズと自分
 博物館学芸員と歴史学

2班 社会科学系統

高校3年間のFW から考えた未来
 生き方を探る
 高校国際交流記
 野球人として学んだこと
 集団自衛権と日本
 孫子で考える戦争と平和

3班 理学・農学系統

数学
 ENTERTAINMENT × TECHNOLOGY
 No consideration, No humanity
 今の私ができるまで
 好きなことを夢に
 過去と未来

4班 工学系統

プログラムの未来
 人生回帰録
 我独り思フコトニハ
 機械と人を結ぶ仕事
 つぼみがいつか花開くように
 夢の変遷
 分析

5班 医歯薬看護学・生活・保育・国際系統

永遠に、未完成。
 「異文化」と私
 THE LAST
 小さいときからの夢をふり返って
 愛があふれてこぼれそう、、、
 教育と国際化
 人とかわる。人とつながる。

6班 教員養成・芸術・体育・就職系統

好きなことを仕事にするべきか?
 私の人生と音楽
 理想を現実にするために
 クラシックの布教
 インスタント人生
 教師への道程
 夢への階段

(4)中1への講話

卒業式の3日後の3月5日の総合人間科の時間、既に推薦入試等で進学を決定している生徒に、同じく「生き方を探る」を大テーマとする中学1年生に向けて、話をしてもらった。内容は自分の6年間を振り返ったり、総人の授業をやって良かったこと、フィールドワークを行う際、やっておけば良かったことなどを話してもらった。どの中学1年生の生徒も熱心に話を聞きメモを取っていた。どの高校3年生もフィールドワークの事前学習はしっかりとやっておくこと、フィールドワークへ行ったその日の内にメモを参考にインタビュー内容を書き起こしておくことを強調していた。一方、全ての中学1年生が先輩に対して質問をする用意が出来ており、聞く姿勢が整っていた。双方にとって有意義な時間であったと思われるため次年度以降も是非継続して欲しい。

7. 成果と課題：アンケート調査より

最後の全体登校日となった行われた1月30日に、総合人間科に関するアンケートを行った。主に前半では職業観に関する質問、後半では総合人間科に関する質問を行った。ここでは総合人間科に関する質問とその結果を記載することにする。

1. 高校卒業後の進路選択に、高校3年間の影響はあると思いますか？

有効回答102人中、「ある」と答えた生徒は66人で実に3分の2に達した。「ない」と答えた生徒も36人いるが、あくまでも進路選択に影響がなかっただけで、どの生徒も総合人間科の授業が自らの考えに何かしらの影響を及ぼしたことは否定していない。

2. 1. で「ある」と答えた人は、具体的にどのようなことですか？

以下に数名のコメントを記載する。

フィールドワークという学習の形式が、今後の学習や人生において役に立つと思う。

プレゼンテーションの仕方、多方面から考える能力、FWでの経験、社会や世界で何が起きているのか興味を持つきっかけになった、意見をまとめる力などたくさんの力が身に付いた。

高校で自分の進路をさだめられたことと、その分野についてフィールドワークなどで学習できたこと。

ただなんとなく感情論で志望していた進路に、社会情勢や自分の性格を考慮した上で理由を述べるようになった。そのため、自分で選んだ道に自信をもつことができるし、学習意欲も向上した。

進路に迷いがあった、本当にその分野の研究が自分に合っているか知るため、インタビューに行った。

どの生徒も専門家に直接話を聞ける機会のありがたみを実感しているようである。先も述べたように自分を知る貴重な時間となっていたことは間違いないようである。

3. 総合人間科について後輩にメッセージがあれば書いてください。

全部自分で調べて直接FWに行けるとするのはとても貴重なこと。きちんと自分自身と向き合う機会はそれほどないので、毎回の総人の時間で自分のことを知るいいチャンスだと思います。特に進路がなかなか決まらない人は、総人で学んできたことが大きく役立つと思います。

高3の推薦で「今までどのような学習をしてきたか」ということを書く場合が多いので、将来の夢が確定している人は、関係する学習をした方がいいと思う。夢が決まってない人は選択肢が増える良い機会なので色々行ってみてください。

総人で経験するアポ取りから始めるFW、論文形式のまとめ、プレゼンなどは大学や社会で生きていくための基本となっていくことだと思われる。高校のうちから準備できることを利点だと思って、是非一度まじめに取り組んでみてください。

面倒だと思う人もいるかもしれませんが、学ばせて頂けるうちに学ぶことは自分の糧になるかと思います。新しい道も見えてくるかもしれません。どうせやるならちゃんと取り組んだほうが身のためです。

高3の推薦で「今までどのような学習をしてきたか」ということを志望動機に書く場合が多いので、将来の夢が確定している人は、関係する学習をした方がいいと思う。夢が決まってない人は選択肢が増える良い機会なので色々行ってみてください。

事前学習やフィールドワーク後のまとめが大変なため苦労は多いものの、真面目に取り組めばその分プラスになって返ってくることを生徒自身がよく理解している。彼らなら3年ないしは6年間で培ってきた探求心をそれぞれの進学先でも発揮してくれるであろう。

(文責 本間洋亮)